



January 2011

Eco PumpNews

世界をリードするエコポンプ

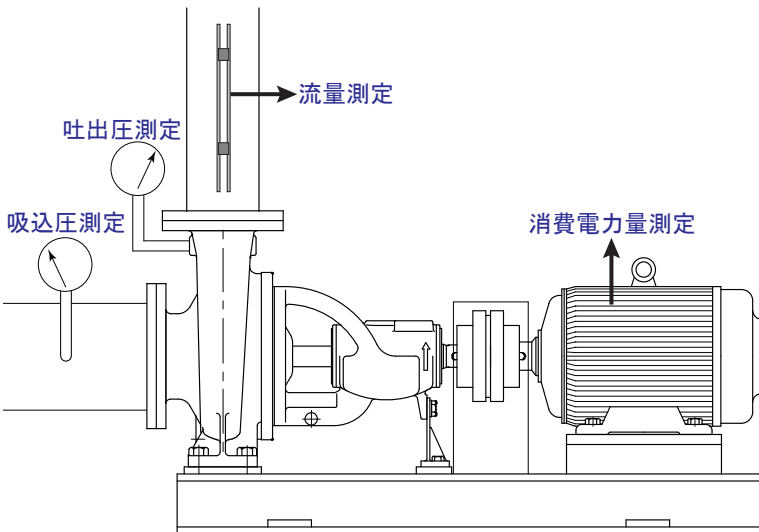
Vol. 10

ポンプで省エネを行う為にはまず、現状設備の運転状況の把握からはじめる必要がある。

しかしながら、ポンプの運転点は測定が非常に困難であり、長期の運転による経年劣化などにより、想定外の運転がされていることもある。

省エネへの第一歩はまず現状の把握から

ポンプの専門家による分析とエネルギーソリューションの提案



▲運転点と消費電力量の把握の為に、4箇所の測定を行う



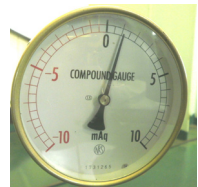
▲流量計取付の様子



▲消費電力量の測定



▲吐出圧の測定



▲吸込圧の測定

納入後の省エネ効果を検証

エコポンプの販売促進の一環として、省エネ効果を測定し、お客様に報告している。具体的には既設ポンプの運転点や消費電力量を測定し、その分析結果より、最適なポンプ設備の提案を行っている。さらに、ポンプ取替後に検証の為に測定を行い、省エネの実証レポートを提出している。

省エネ分析のエキスパート

省エネ/低コストの設備が求められる昨今、消費電力量が大きいポンプは省エネの可能性が多く含まれているが、その運転が適正であるかの判断は往々にして困難である。西島製作所では設備の安定稼働と省エネの両立のために、測定データ分析とポンプ設備の研修をエコポンプの営業全員に行っている。今ではお客様からのヒアリング情報を元に実際に現地で設備を測定・分析し、省エネの為に設備提案を、全員が行える様になっている。現地での測定は超音波流量計と圧力計でポンプ

の仕様を確認する。同時に、消費電力量も測定し、ポンプ取替前後の省エネ効果の実証に用いている。

分析の難しい運転点

現在、電力の見える化を行っている会社が増えてきているが、ポンプにおいては最適な設備仕様の選定が非常に困難であり、根本的な省エネに踏み込めないことが多い。これは設備側に必要な水量/圧力や配管損失などの正確な計算が一般的に難解だからである。また、長く使われているポンプは、配管やポンプ本体の経年劣化により、想定と全く違う場所で運転していることもある。

こういった状況の分析は計算だけでなく、数多くの現場での経験が無いと困難である。その為、経験からの的確な判断が下せる専門家が設備状況を測定・分析し、最も適切であると考えられるポンプ設備を提案させていただいている。

バルブ絞りは要注意

省エネ可能なポンプを簡単に見つける一つのポイントとしてバルブ制御(絞り)がある。バルブ制御は水量を適正にするために行っているが、圧力の余裕が多く発生する為、消費電力が余計にかかっている可能性がある。こういったポンプは省エネ可能な場合が多いので、ポンプ仕様の見直しを推奨している。

Network

本 社	072(695)0551
東京支社	03(5437)0820
大阪支店	072(696)8018
名古屋支店	052(221)9521
九州支店	092(771)1381
札幌支店	011(241)8911
仙台支店	022(223)3971
広島支店	082(263)8222
高松支店	087(822)2001

地球をポンプで洗濯する。



美しい緑あふれる社会へ。
トリシマはチャレンジします。

